

---

# 転生先はリリカルな世界

リオン

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

転生先はリリカルな世界

### 【Nコード】

N1172BA

### 【作者名】

リオン

### 【あらすじ】

交通事故で死亡した男がチート能力をもらい転生するお話。

## プロローグ（前書き）

この作品はほかの方々が書いている作品を読み自分も書いてみようと思った作品です。どうか寛大な心で読んでくれることをお願いします

## プロローグ

「あゝマジでついてねえ〜。」

俺はそう言いながら信号無視をし横断歩道を渡る。

「ホントついてねえなあんな企業の面接落ちるとか、どこの世界の幻想殺しだよ右手に特別なちからなんてねえのに」

俺はとある企業の面接を落としてしまったことに愚痴りながら自宅へ帰ろうとしている。ちなみに落ちた理由は緊張のしすぎで力加減を間違えて面接官のいる応接室の扉を破壊してしまったことである。

「しっかしついてないとはかり愚痴つとる場合じゃないな。本気で就職先見つけないと二トトになつてしまう。……ん？」

ここから先はあまり覚えていない。だってそうだろ？自分が死んでしまったことなんて。

## プロローグ（後書き）

感想又は指摘などよろしくお願いします

## プロローグ2

「なんで俺こんなところにいるんだ？」

そう俺は企業面接を受けた帰りであつたはずである。途中でなんかあつたような気がするがそうでなくてはおかしい。そうでなければなぜこんな精神と時の部屋の中みたいな所にいるんだ。

死神「いや〜ホントごめん。」

なんかデカイ鎌をもつたガイコツが話しかけてくる・・・よし！無視しよう。

死神「お〜い。無視すんなよ。間違いで殺したことに腹立ててるなら謝るからさ。」

ハイ？イマナンツツタコイツ？オレヲマチガイデコロシタ？

俺「待てそれはどういうことだ！？まてよ最近不幸続きなのもまさかお前の仕業か？」

死神「うんまあそういうこと。最近就職できなくて自殺する学生が多いんだよ、それで間違えてね。お詫びに君を他の世界に転生させよう。どうかしてくれマジでお願いします！これが他の奴にばれたらいろいろと不味い。」

俺「いろいろってなんだよ。っつか俺は間違いで殺されたんか。そして転生するのを断ったらどうなんの俺？」

死神「してくれなければ残念ながら地獄へ行ってもらいます。」

断ったらまずいな。

俺「転生先はどこの世界だ？」  
死神「この中から選んでくれ。」

1・IS インフィニット・ストラトス

2・とある魔術の禁書目録

3・魔法少女リリカルなのは

俺「なんでこの三つ？」

死神「人気があるんだよ。特にIS インフィニット・ストラトス。」

俺「じゃあかぶらないように魔法少女リリカルなのは。」

死神「そいじゃこの紙に欲しい能力とか設定とか書いて、そいで君は晴れて転生者だ。存分に原作を破壊してくれ。」

俺「原作破壊する前提で転生させるのかよ。まあいいや。ほい書けたぞ。」

死神「うん。それじゃ二度目の人生をお楽しみに。」

死神はそういつて俺に鎌を振るい俺は意識を飛ばした。

## 主人公設定

名前：草薙クサナギ 竜也タツヤ

性別：男

年齢：19 9

一人称：俺

容姿：髪は普通の黒色でBLACK CATのトレイン「ハートネツト

瞳の色：赤

身長：なのはより5cm高い

趣味・特技：昼寝、読書、一対一の喧嘩、ガンシューティング&アクシオン系のゲーム

好きな食べ物：肉、麺類

嫌いな食べ物：苦いもの、粘つくもの

神に貰った能力&設定：破壊者の願い（漫画やアニメの異能を全てノーリスクで発動し使うことができるが複数同時に使用するのは魔力を多大に消費し最悪の場合死んでしまうというリスクがある）  
肉体は竜の騎士ドラゴンキーンであり結構頑丈。

転生先での生活は一人で暮らしている（一応書類上の親はいる。）  
魔力はEX（いくら竜の騎士の体とはいえ負担がかかるので普段はリミッターをかけているちなみにリミッターつきの魔力はAA）

詳細：

本作の主人公。短大生であったが死神の手違いで殺され『魔法少女リリカルなのは』の世界に転生してしまう。性格は自称めんどくさがりやで少し短気、また思いやりが強く自分の都合で誰かを傷つけてしまうことが許せなく基本一人で行動する。戦闘については前世でかなりの喧嘩をしておりある程度の動きを予測しカウンターを合



わせるという戦法を好む。

## 主人公設定（後書き）

冬休みなので書けるときに書いていこうと思います。感想指摘よろしくお願いします。

## 第1話

そんなこんなで転生した俺。今所在地は海鳴市私立聖祥大附属小学校放課後のの屋上。しかもその学校の制服をきている。そして俺は・  
・  
・

「なんで小学校からやり直さんといかんのだ？」

現状にめちゃくちや不満を言っていた。だってそうだろ小学生だよ。義務教育だよ。元短大生の俺からしてみればぶっちゃけメンドイの一言に尽きる主に授業が。

「まあ住む所があるだけマシか。学校は進級できる最低限の日数顔出せばいいし。」

不良宣言をし自宅へと帰る。ちなみにこれから向かう場所はマンションである。

「それにしても書類上親がいることになってるけど小学生の一人暮らしして色々まずいな。未来の魔王にばれたら一緒に住もうとか言っ  
て毎日最強のシスコンに命を狙われるはめになる。」

そんなことを言っているうちに自宅へと着いた。

「さてと今俺がやるべきことは能力の確認と現在の日にち。あとは・  
・・「もしもお隣さんですか?」「ん?」

振り向くとそこには未来の魔王の相方であるフェイトがいた。



のか？」

「ハンツ！あんたに心配されるようなことは無いよ。ジュエルシード探しはまだしないからね！」

「（おいおい自分らの目的言っているのかよ？）・・・ジュエルシードだと？なぜそんな物を集めてるんだ？」

「あつ！？」

バカだろこの使い魔。

「フェイト！こいつ消すよ！」

「なんで俺が消されなきゃならんだ。あと質問してるのは俺だ。」

「アルフ消さなくていいから。」

「フェイトは甘すぎだよ！」

「なあこの際あんた等がなんでジュエルシード集めてるかはいいとして。俺を雇わないか？そうすりゃあんた等の信頼を得られるんじゃないのか。」

「えっ？」

フェイトが驚いた顔をしているがとりあえず無視だ。

「とりあえずこっちの今欲しいものはあんた等の信頼。これがジュエルシード探しの手伝いの報酬でどうだ？」

「信用できるか！ふざけるんじゃ・・・」アルフこの人を信用してみよう。「フェイト！？」

「この人がもし敵だとしたら今ここで暴れているはずだから一応信用してみようと思う。」

「契約成立と受け取っていいのか？その言葉？」

「うん。私の依頼は『お母さんの笑顔』。そのためにジュエルシードをあつめているから。」

「OK。んじゃ契約成立ということだからよろしく頼む。」

そういつて俺はフェイトと握手する。俺の無印介入はフェイト側で始まるようだ。

## 第二話（後書き）

アルフのしゃべり方ってこんな感じでよかったけ？  
感想待ってます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1172ba/>

---

転生先はリリカルな世界

2012年1月9日00時49分発行